

*** ある日の育児日記から ***

***** (7) *****

佐藤 和代 ***



保育園のクラスメイトのお母さんに、講演会に誘われました。保育つきなので、子連れでも大丈夫とのこと。これまで「保育つき」でも、知らない場所で知らない大人に預けて平気かしら、と不安で、参加を見合わせてばかりでした。でも今回は友だちが一緒。これでうまくいけば保育つきコンサートなんかも行けるし…と打算もあって、参加してみることにしました。

さて当日。子どもは別室でおやつを食べながら映画を観るとか。ちょっと不安になります。二歳の子がそんなに長い時間、映画を観ているかしら？ 保育者の数も少ないようだし…。ともかく圭を置いて、私は講演会場へ。そして、講師の先生も調子が出てきたな、と思う頃です。ろう下で、「お母さーん」と叫ぶ声。何人かのお母さんたちがそわそわします。続いて第二声、よく通る子どもの声で「けいちゃんのお母さーん！」

ああだめだ、名ざしで呼ばれてしまった。まわりの人たちは、同情的な笑みをうかべて、道をあけてくれました。

やはりまだ無理だったかな。以来、雑誌などで「保育つきの〇〇が登場」などという記事をみつけても、あまり読む気がしなくなりました。

